

緩和ケアセンター

○緩和ケアセンターを選択科で研修する場合の初期研修プログラム

【研修プログラムの概要・特徴】

診療領域・職種横断的なチーム（緩和ケア）の活動に参加する。各専門診療科から紹介・コンサルトをうけた患者や家族を対象とし、主に身体症状と精神症状への対症療法や、終末期の症候（看取りも含む）について学ぶ。多職種（専門・認定看護師、薬剤師、臨床心理士、管理栄養士、社会福祉士等）との連携を通じたチーム医療の実践を目標とする。

【研修の目標】

● 一般目標

悪性腫瘍等の生命を脅かす疾患に罹患している患者・家族を対象として、全人的ケアを目標としたチーム医療を経験する。

● 行動目標（Specific Behavior Objectives: SBOs）

1カ月の研修で、基本的症状マネジメントの研修が可能。機会があれば、看取りの方法・礼儀作法についての研修が可能。

I 身体症状・精神症状マネジメント

【態 度】	
1	身体的・精神的だけでなく、心理的・社会的に評価・把握することができる
2	症状マネジメント及び日常生活支援がQOLの向上の基本であることを理解することができる
3	緩和ケアは患者・家族と多職種チームによる共同作業であることを理解することができる
4	患者家族の気持ちに配慮しつつ過度の期待に対し現実的な目標設定を行うことができる
5	自らの限界を認識し、自分で対応できない課題について適切にコンサルトできる

【技 能】	
1	以下の身体症状・精神症状マネジメントを経験する 1) 痛み ①がん疼痛 ②非がん疼痛 2) 呼吸器系・循環器系 ①咳・痰 ②呼吸困難 ③死前喘鳴 ④動悸・胸痛 3) 消化器系 ①食欲不振 ②嘔気・嘔吐 ③便秘 ④消化管閉塞 ⑤腹部膨満感 ⑥腹水 4) 精神症状 ①抑うつ ②不眠 ③せん妄 5) 腫瘍学的緊急症等・その他 ①高カルシウム血症 ②出血 ③脊髄圧迫 ④倦怠感 ⑤終末期の症候

【知 識】	
1	痛みの定義・評価、WHO 方式がん疼痛治療法
2	鎮静の適応と方法

II コミュニケーション

【態 度】	
1	患者・家族の気持ちを尊重した傾聴ができる
2	コミュニケーションは人間関係の基本であることを理解する
【技 能】	
1	患者がどのように病態・予後を理解しているか把握できる
2	患者・家族の不安要素を理解し、対応できる
【知 識】	
1	悪い知らせの具体的な伝え方について、述べるができる

III 家族ケア・死別による悲嘆・スピリチュアルペイン

【態 度】	
1	家族の意志・希望が異なる場合もあることを理解できる
【技 能】【知 識】	
1	家族援助を目的とした社会的資源を活用できる
2	スピリチュアルペインに気づくことができる

【研修受け入れ期間】

4 週間

【研修場所】

熊本大学病院緩和ケアセンター（東病棟・西病棟・外来等含む）

【研修の方略（スケジュール）】

平日：モーニングカンファレンス（8：40～）

各診療科への緩和ケアチーム回診、緩和ケア外来患者の対応、緊急緩和ケア病床入院患者の指示

火曜日：緩和ケアチーム病棟回診（13：00～）

緩和ケアチームカンファレンス（17：30～）

その他：緩和ケア研修会（PEACE）および熊本緩和ケアカンファレンスに参加（院外施設を含む）

【研修の評価】

評価は研修実施責任者と指導責任者が行う。

上記の行動目標（Specific Behavior Objectives: SBOs）を評価内容とする。

必要がある場合は、次年度の指導方法・研修内容を再検討する。

【研修実施責任者】

麻酔科長：山本達郎

【研修指導責任者】

緩和ケアセンター：吉武 淳（正）、鳥崎哲平（副）